

平成30・31年度

五島市教育委員会指定

「豊かな心の育成」研究中間発表会

研究紀要

平成31年2月6日（水）

五島市立奥浦中学校

研究主題

『よりよい人間関係を築き、心豊かでたくましく生きる生徒の育成』

～生徒一人一人を大切に作る学級づくりと近隣校や地域との交流を通して～

研究仮説

生徒一人一人を大切に作る学級づくりを進め、近隣校や地域との交流を深めることで、よりよい人間関係が築かれ、心豊かでたくましく生きる生徒が育つであろう。

主題設定の理由

～本校生徒の実態（主な課題）より～

本校は生徒数が27人という小規模校であり、生徒は多くの役割を果たしながら学校生活を送っている。また、部活動は全員加入している。地域との結びつきが強く、地域の行事には全員が参加する。近隣の小・中学校との連携を取り、行事や授業を通して交流する機会も多く、校外の人との触れ合いの場があることは生徒の心の成長の一助となっている。一方で、日常生活においては変化に乏しく固定化された人間関係の中で生活しているため、多様な考え方に触れる機会が少なく、自主性や積極性、思いやりに欠ける面ももうかがえる。また、家庭環境に恵まれない生徒や人間関係を築くことに課題を持つ生徒もいる。

このような現状をふまえ、本校では、「自主的に学び、鍛錬する生徒」「礼儀作法を身に付け、思いやりと感謝の気持ちを言動に表すことができる生徒」の育成を目指している。そのためには、生徒一人一人を大切に、自己肯定感を高める指導に力点を置くことが重要であると考えた。

そこで、生徒一人一人を大切に作る学級づくりを進めて自己肯定感を高め、近隣校や地域との交流を深めてよりよい人間関係の築き方を学ぶことが、心豊かでたくましく生きる生徒の育成につながると考え、この主題を設定した。

研究構想図

教育目標 『助け合い 高め合い 躍動する生徒の育成』
 自ら鍛える (体)
思いやりの心を持つ (徳)
 求めて学ぶ (知)

めざす生徒像

- 礼儀正しい生徒
- 自主的に学び、鍛錬する生徒
- 思いやりと感謝の気持ちを持つ生徒

研究主題 『よりよい人間関係を築き、心豊かでたくましく生きる生徒の育成』
 ～生徒一人一人を大切にする学級づくりと近隣校や地域との交流を通して～

学級づくりチーム ○特別支援教育の視点に立った指導 ○個に応じた対応	交流学习チーム ○生徒会活動 ○諸行事 ○総合的な学習
道徳の授業づくりチーム (全職員) ○指導案作成 ○ <u>指導案検討</u> ○ <u>授業公開</u> ○ <u>授業研究</u>	
五島市教育研究会道徳部会 (○指導案検討 ○授業参観 ○授業研究)	

豊かな心の基盤づくり

研究の2つの柱

<自己肯定感の育成> <道徳的心情の育成>

今年度の重点

1 生徒一人一人を大切にする学級づくり

- (1) 特別支援教育の視点に立った指導
 - 個別の教育指導計画、個別の教育支援計画の作成と活用
- (2) 校区内に、児童養護施設があるという環境に配慮した指導
 - 生徒情報の共通理解
- (3) 支持的風土の醸成


+

3 道徳の授業づくりと実践

- (1) ねらいを具体的に示し、ねらいと評価の一体化がされた指導
- (2) 生徒が、主体的に課題解決に取り組む発問の工夫
- (3) 言語活動の充実

2 交流学习

- (1) 他学年との交流
 - 部活動、生徒会活動、学校行事
- (2) 近隣校との交流
 - 久賀中学校との交流 (学習遠足、保体の授業)
 - 奥浦小学校との交流 (学校行事、地域行事、学習発表会など)
 - 地域との交流 (鑑賞会、運動会、スポーツフェスタ、奥浦さるくなど)
 - 地域の保育園、老人福祉施設との交流 (行事、総合的な学習の時間など)



研究の主な取組

生徒一人一人を大切にする学級づくり

- < 生徒指導部会(CN会議を含む)、ケース会議 >
- 時間割の中に設定
 - 生徒の情報交換・指導方法の検討
 - 配慮を要する生徒の状況の確認
 - 個別の教育支援計画、個別の教育指導計画の作成

特別支援教育の視点に立った指導

- < 全職員による生徒情報・指導方法の共有 >
- 学校、学年、学級経営に反映
 - 配慮のある授業の実施
 - 個に応じた対応
(学習課題の配慮、放課後の個別学習)

道徳の指導案づくり

指導案作成上のポイント

< 導入 >

本時のねらいに関わる問題意識をもたせる導入、教材の内容に興味や関心をもたせる導入。

< 展開 >

- 発問する…生徒の思考を予想し、それに沿った発問や、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛ける。
- 話し合う…考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫する。
- 書く……自分なりにじっくり考えるための時間を確保し、個別指導を行う。
- 表現する…様々な子どもに対応するために、様々な表現方法を取り入れる。
- 板書する…順接的、対比的、構造的、視覚的、創造的など意図を明確にする。

< 終末 >

【振り返りの視点】

- 比較…授業開始時と終了時における考えがどのように変わったか。
- 教材観…自らが納得できる考えを導き出す上で効果的な教材を選択できたか。
- 主体性…表現活動や体験活動に意欲的で主体的に取り組むことができたか。
- 価値…学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめることができたか。
- 学び方…主体的かつ効果的な学び方を自ら考えることができたか。
- 発展性…課題や目標、道徳性を養うよさや意義を考えることができたか。

指導案作成のポイントの明確化
奥浦中学校職員、
奥浦小学校職員、
福江小学校職員
参加

H30.8.27
市教研道徳部会の中
での指導案研修会
(県教委)
奥浦中学校職員、
五島市教育研究会道
徳部会部員 他
参加

道徳の授業公開
平成30年10月
11月
12月
平成31年2月
計7本公開

交流学习

様々な交流

- < 奥浦小学校・
中学校合同体育発表会 >
平成30年10月12日(金)
- 地域社会に対して日頃の学校教育を紹介し、小学校と中学校の連携、学校と地域社会の理解・協力を一層促進させる機会。

中学生のリーダーシップの発揮

- < 久賀中学校との交流 >
平成30年10月15日(月)
- 2校時～4校時 合同授業
(国・数・社・理・英を中心に)
 - 5・6校時 合同授業
(保健体育 ソフトボール)

他者と関わりあう力の育成
考えや思いを伝える力の育成

- < 生徒会活動 >
平成31年1月23日(水)
- 空き缶・空き瓶回収(8/21)
 - 奥浦中学校生徒会ボランティア
収益による寄贈物贈呈

感謝の気持ちを伝える
奥浦地区の一員としての自覚・連帯感
を持たせ、奥浦への郷土愛を高める

成果と課題

成 果

(1) 特別支援教育の視点に立った指導

○生徒情報の共有化がなされ、個に応じたきめ細かな対応を行うことができた。その結果、落ち着いて学校生活を送ることができる生徒が増えてきた。

(2) 職員による道徳の指導案の作成と実践と市教育研究会道徳部会との連携

○学年、教科の枠を越えた意見交流の場ができ、職員に授業改善の意識、意欲の向上が見られた。そのことにより、組織で道徳の授業、評価に取り組もうとする機運が高まった。

○市教育研究会道徳部会との連携が、よりよい道徳の授業づくりに対する意識向上の一助となった。また、小学校と中学校において、発達段階に応じた道徳の授業の取り組み方の違いを確認することができた。

(3) 生徒の変容

○年度途中での転入生に対して、温かく受け入れようとする態度と行動が見られた。

○道徳の授業で学んだことを、他教科の授業に生かそうとする意欲が芽生えた。

○奥浦小学校児童、久賀中学校生徒との交流や学習発表会を通して、自己表現力が高まった。

今後の課題

(1) 生徒一人一人を大切に作る学級づくりと交流学習を活性化させる仕組みづくり

○小規模校において、確実に機能する仕組みを作る。

(2) 生徒が自主的に取り組む交流の場の設定

○義務教育9年間を見通した小・中連携のあり方を再構築し、さらに活性化する。

○行事において決まったことに取り組むだけでなく、生徒自ら積極的に意見やアイデアを出し、仲間と協力しながら、小学生や他校生を牽引しようとするリーダーシップを発揮できる場を仕組む。

(3) 道徳の授業づくりと実践

○道徳的心情（「自主、自律」、「思いやり、感謝」、「郷土を愛する態度」、「よりよく生きる喜び」）を道徳的实践意欲と態度に高める。

次年度に向けて

本校1年目の研究により、道徳の授業を通して道徳的判断力や心情が育ってきている。しかし、「自主、自律」、「思いやり、感謝」等の道徳的心情が、学校における全教育活動、さらには、地域との交流学習等の中で、道徳的实践意欲や態度までには至っていない現状である。

次年度は、このような現状をふまえ、学級づくりや交流学習を中心に、全教育活動を通して、道徳的な判断力や心情の深化を促進する。諸活動においては実践力を発揮させるような指導を図り、様々な交流の場において、他者との関わりの中で主体的に行動し、思いやりや感謝の気持ちを表現できるような心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。

